

# ウサギの夏の対策

## 夏バテってなんなの？

夏バテとは、夏の暑さで食欲が減退して体が弱ることです。夏負け、暑気あたりともいい、夏の代名詞（？）みたいな言葉です。

そう言われてみれば、春バテ・秋負け・寒気あたり、なんてことは聞きません。夏は要注意！

ウサギは、犬や猫やハムスターにくらべるとかなりデリケート。温度や湿度など気候の変化に敏感で、特に夏は苦手です。それでいて飼い主には夏休みがあって、帰省や旅行があったり、来客が増えたりイベントも多くなります。

そんな夏のストレスが度重なると、胃腸の機能が低下するなどして、いわゆる夏バテとなります。抵抗力が落ちて、さまざまな病気を引き起こしますので、“夏バテくらいなら大丈夫”と軽い気持ちで放っておくと、熱射病や胃腸障害にもなり、命にかかわることになってしまいます。

また、移動に伴って夏バテのようになることもよくあります。

そこで夏バテの症状・対策・予防法をお話します。

## こんな様子を見せたら夏バテかも

夏バテと思われてしまう中には、熱中症だったりすることもあります。

人にも動物にも、体温を一定に保とうとする調節機能が備わっています。寒い時は体の表面の血管を収縮させて、体の深部が冷えないようにし、それでも不十分な時は、ふるえることで熱をつくるようにしています。

逆に体温が高くなりそうな時は、血管を拡げて体の表面の血流をよくし、少しでも熱を放出しやすいようにします。ウサギの耳は大きくて長いので、特にその機能が効率よく行え、いわば空調冷却器のような働きをします。

しかし、限度を越えてしまうと、体温は急に上昇をはじめ、異常に高くなってしまいます。そのために、体の大切な各臓器の細胞が痛んでしまって、命にかかわる状態になります。症状を説明しますと、次のようです。

ウサギの体をさわってみると、ほてって熱く、耳の粘膜の血管が拡張し、呼吸は早く、荒いものになります。ひどくなると鼻がヒクヒクし、首を伸ばすようになり、前の両肢が開き、意識がなくなってしまう。

血液検査してみると、腎臓や肝臓の細胞が冒されていることもあります。

胃腸の機能が落ちると場合もあり、食欲や元気がなくなったり、下痢をしたりもします。

あえぎ呼吸・めまい・よだれ・口の粘膜の充血・血便・けいれんなどを引き起こし、血圧が下がり、眼球が異常な動きを見せる神経症状が出る場合もあります。

以上のように体温調節機構がこわれてなくても、高い気温はストレスにより抵抗力が低下したり、自律神経の働きが悪くなります。

胃腸の機能低下を伴うことになり、食欲が低下し元気もなくなります。食欲がなくなれば、すぐに便の量が少なくなったり小さくなったりします。なかには下痢をしやすいこともあります。

## 治すにはどうすればいいのか

## 環境

まず、風通しのよい涼しい場所に連れていきます。

体が高温になって意識もないような状態でしたら、水をかけて体を冷やします。ビニール袋に氷水を入れて、腹部を冷ますと効果的です。冷たいタオルを体にかけるのも有効です。水をほしがるようにでしたら与えましょう。

正常な体温まで下がったら、今度は体が冷え過ぎないようにします。体が濡れているときはよく拭きとります。

緊急扱いで動物病院にかかります。

## エサ

正しい食事をバランスよく与え、胃腸機能低下を防ぎましょう。

つまり、チモシーの乾し草をたっぷり与え、ペレットは少なめにし、野菜や果物もあまって腐らないように少し与えます。新鮮な水をたっぷり用意し、毎日取り替えましょう。

## 夏バテの予防法

日光浴をさせようとケージごと日陰のない場所に置いたり、真夏の炎天下に野原で遊ばせたり、車内に放置したりするのは、大変危険なことです。

適温は 27 くらいといわれています。真夏の気温にも徐々に適応すると思われませんが、室温が外気より適度に上がり過ぎないように、換気扇を回したり、エアコンを適度にかけるなどの注意が必要になるでしょう。

## 移動中の夏バテの注意

夏は、車や電車、飛行機などを使って一緒に出かけたり、旅行中にペットホテルに預けたりと、ウサギを移動させることが多くなります。

十分気をつけているつもりでも、移動中に急にエサを食べなくなったり、調子が悪くなったりすることがあります。

環境が急変しないよう、移動時でも普段の食事や容器を持ち込み、少しでもいつものスタイルに近づけることが、夏バテやストレスの予防になります。

一緒に連れて行く方が安心するタイプのウサギ・なじみのホテルにお願いするのがよいタイプのウサギ・どちらもダメで家に置いて、ペットシッターや知人来てもらって世話を頼むほうがストレスにならないウサギと、それぞれ性格が違います。そのウサギに合った方法を選んで、楽しい夏となるようにしてあげましょう。

## 宏子先生の診察室

今、何飼ってる？

大学時代の同級生から、久しぶりに電話がありました。「そろそろ、データ、また出してくれよ」

数年前、動物別の初診来院数のデータを頼まれて出したのを、どう変化しているか調べてほしいというのです。

「んー、ハムスターは少し減ってきてて、ウサギが増えてるかなー。あと犬は小型犬ブームよ」と話すと、「そういうあいまいな答えじゃなくって、数字でほしいんだよ」

やれやれ...これがまたけっこう大変な労力と時間をつぎこむことになるのです。でも、この春から長女が獣医看護師になって、私たちの病院を手伝ってくれるようになったので、データ作りをまかせました。

「一軒でいっぱい飼ってる人もいるんだね」「いろんな名前をつけてて、楽しいね」「このカルテ、すごく厚ぼったいけど、大きい病気だったの?」と、カルテをめくりながら娘は大奮闘。

さて、こうしてでき上がった動物別の初診来院数のデータ、これが意外な推移をみせることがあるのです。ライセンスを通して社会をみている気分です。

日本経済が繁栄上昇していたときは、大型のハスキー犬の飼育が大流行。小さな庭でもみんな大型犬を飼いたがっていたっけ。

その後パブルがはじけ、ハスキー犬はいつのまにか目立たなくなり、今では私たちの病院でも数えるほど。代わりに急上昇してきたハムスターですが、最近はやや頭打ちです。

10年前からコンスタントに上昇を続け、今もそのペースを落とさないのがウサギ。今回のデータでは、犬について2位になりました。

犬はテレビコマーシャルで人気の小型犬がここ数年人気で、ミニチュアダックス・まめ柴・チワワが増えています。

猫は時代を問わずマイペースで、25~30%をキープしているからおもしろい。

データを見る限りでは、不透明な時代でも動物に愛らしさと安らぎを求める人の心は変わらないようです。今日も私たちの病院の待合室は、動物大好きの人たちのおしゃべりで盛り上がっていて、楽しい空間となっています。

娘がデータを出してくれたことを彼に伝えると、「いいなあ。技術と精神を順送りできるなんて。現代の親子関係じゃ稀な出来事だぜ」そう言われて、ちょっとうれしくなりました。